

高知県埋蔵文化財センター年報

第25号

2015年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第25号

2015年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

高知県埋蔵文化財センターは大規模開発に対応すべく円滑な発掘調査事業の推進と共に高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行うべく指定管理者として取り組んでいます。

平成27年度の受託事業は、発掘調査が3件で整理作業が4件でした。発掘調査事業については道路開発や公共施設建替工事等に伴う緊急発掘調査が新たな事業として始まりました。国事業では南国安芸道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査と整理業務、県事業では保健衛生庁舎建替工事に伴う発掘調査整理業務と県道改良工事に伴う発掘調査整理業務が実施されました。

次に指定管理事業では出前考古学教室、公開講座等事業、企画展等事業を三本柱とし、出前考古学教室は今年度も県内の小学校を中心に85校に出向き、3,052人の児童を対象に実施しました。親子考古学教室、古代ものづくり体験教室など公開講座については昨年度以上に充実した内容を用意し、今年度は「まいぶんセンターまつり」という新しい企画をスタートさせました。当埋蔵文化財センターがある南国市の地域の方々を対象に周知し、勾玉づくりや銅鏡づくり、火起こしなどを埋蔵文化財センターで開催し、当日は親子連れなど301名もの参加がありました。また、企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めるとともに、企画展示にあわせたフィールドワークも併せて実施いたしました。このような取り組みをした結果、平成27年度の当埋蔵文化財センター来館者は4,040人と過去最高の来館者数となりました。

また、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共に高知県文化財団としてワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブへの参加など埋蔵文化財センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進する計画です。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 松田 直則

例言

- 1.本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 27(2015)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.「Ⅲの2の(1)～(8)」及び「Ⅳ」は担当が中心となって執筆し、吉成が取りまとめ編集した。それ以外は吉成が執筆、編集した。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団.....	1	III 年間事業の概要.....	7
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要.....	1	1. 発掘調査事業.....	7
(1) 設立趣旨.....	1	(1) 受託事業.....	8
(2) 目的等.....	1	(2) 発掘調査報告書.....	10
(3) 設立年月日.....	1	2. 指定管理事業.....	12
(4) 名称変更年月日.....	1	(1) 公開展示.....	13
(5) 事務局所在地.....	1	(2) 公開講座等.....	15
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織.....	2	(3) 情報公開等.....	20
(1) 財団組織.....	2	(4) 出前考古学教室.....	23
(2) 財団役員.....	2	(5) 研修事業.....	28
II 埋蔵文化財センター.....	3	(6) 講師等職員の派遣.....	28
1. 埋蔵文化財センターの概要.....	3	(7) 遺物の再整理事業等.....	29
(1) 設立趣旨.....	3	(8) その他.....	30
(2) 事業内容.....	3	IV 各遺跡の発掘調査概要.....	31
(3) 設立年月日.....	3	1. 高田遺跡(15-3KT).....	31
(4) 埋蔵文化財センター所在地.....	3	2. 高知城跡北曲輪(15-4KK).....	33
2. 埋蔵文化財センターの組織.....	3	3. 岡遺跡(15-1AO).....	35
(1) 埋蔵文化財センターの組織図.....	3	V 条例・規則等.....	37
3. 埋蔵文化財センターの施設.....	5	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例.....	37
4. 利用方法等について.....	6	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則.....	41
(1) センターの利用.....	6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指 定.....	42
(2) 利用時間.....	6		
(3) 休館日.....	6		
(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先.....	6		

表目次

表1 高知県文化財団評議員.....	2	覧.....	11
表2 高知県文化財団役員.....	2	表8 入館者推移表と平成27年度の入館者.....	13
表3 平成27年度高知県埋蔵文化財センター職員一 覧.....	4	表9 公開講座参加者数.....	16
表4 発掘調査推移表.....	7	表10 平成27年度公開講座1.....	17
表5 平成27年度受託発掘調査事業(発掘調査遺跡)一 覧.....	8	表11 平成27年度考古学講座(考古学からわかる歴史教 室).....	17
表6 平成27年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書 刊行分)一覧.....	9	表12 平成27年度発掘調査報告会(遺跡解説会).....	18
表7 平成27年度埋蔵文化財センター刊行報告書一 覧.....	11	表13 平成27年度公開講座2(親子考古学教室).....	18
		表14 平成27年度物品・遺物(県有物)貸出一覧1.....	21
		表15 平成27年度物品・遺物(県有物)貸出一覧2.....	22

表16 平成27年度施設見学者一覧.....	22	実施数).....	25
表17 平成10～27年度出前考古学教室実績一覧.....	23	表21 平成27年度職員専門研修.....	28
表18 平成27年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)1.....	24	表22 平成27年度埋蔵文化財担当者研修.....	28
表19 平成27年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)2.....	25	表23 平成27年度職員自主企画研修.....	28
表20 平成27年度出前考古学教室後期実績一覧(授業		表24 平成27年度講師等派遣依頼一覧.....	29
		表25 平成27年度会議等参加者一覧.....	29

図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 6 平成27年度受託事業発掘調査位置図.....	8
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 7 平成27年度受託事業整理作業位置図.....	10
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800).....	5	図 8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合.....	12
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800).....	6	図 9 宇賀・高田遺跡位置図.....	31
図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7	図 10 高知城跡北曲輪位置図.....	33
		図 11 岡遺跡位置図.....	35

写真目次

写真1 年間行事カレンダー.....	12	写真14 火起こし.....	26
写真2 企画展1ポスター.....	13	写真15 勾玉づくり.....	26
写真3 巡回展ポスター.....	14	写真16 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ 1.....	30
写真4 企画展2ポスター.....	14	写真17 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ 2.....	30
写真5 特別展ポスター.....	15	写真18 掘立柱建物跡.....	31
写真6 移動展ポスター.....	15	写真19 須恵器出土状態.....	32
写真7 特別展記念講演会.....	15	写真20 瓦廃棄土坑及び溝跡完掘状態.....	33
写真8 親子考古学教室ポスター.....	16	写真21 漆器椀出土状態.....	33
写真9 まいぶんセンターまつり(展示解説).....	19	写真22 鬼瓦.....	34
写真10 まいぶんセンターまつり(土器づくり).....	19	写真23 鍛冶関連遺構検出状態.....	35
写真11 文蔵くんとまいちゃん.....	19	写真24 遺構完掘状態.....	35
写真12 ホームページ.....	20		
写真13 考古学授業.....	23		

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代すう勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館する等、県民文化の振興のための施設整備がなされてきた。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに、高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって、本県の新しい時代の、総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団を名称変更し、移行したことにより設立

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益在団法人高知県文化財団の組織

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事10名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

(2) 財団役員

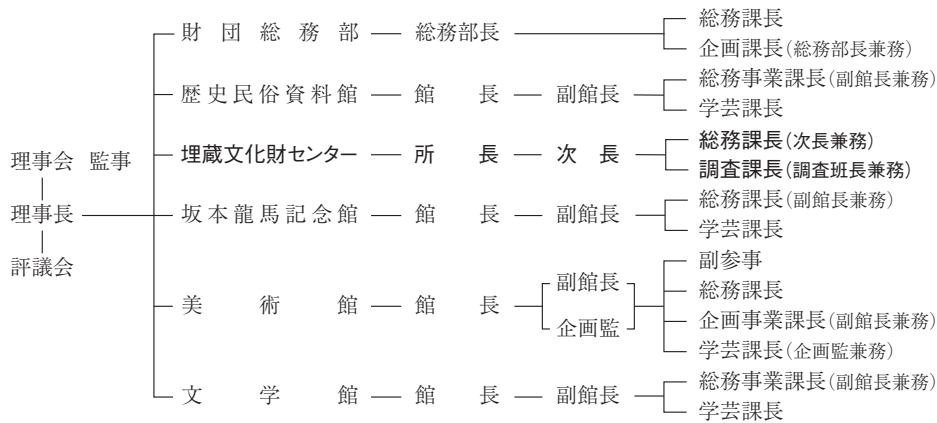


図1 高知県文化財団組織図

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	岡林 豊	(株)高知銀行常務取締役	平成25年6月10日就任
〃	武内 孝幸	高知県町村会事務局長	平成27年8月4日就任
〃	田所 実	高知県教育委員会事務局教育次長	平成27年6月12日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行代表取締役会長	平成24年4月1日就任
〃	橋口 欣二	高知県文化生活部副部長	平成27年6月12日就任
〃	又川 晃世	(株)高知新聞社学芸部長	平成27年6月12日就任
〃	山本 正篤	高知県市長会事務局長	平成27年6月12日就任

平成28年3月31日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	浜田 正博		平成25年4月12日就任
理事	青木 章泰	(株)四国銀行相談役	平成24年4月1日就任
〃	岩崎 憲郎	高知県町村会長	平成27年6月12日就任
〃	岡崎 順子	高知県文化生活部長	平成25年4月12日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成24年4月1日就任
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭	平成24年4月1日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成24年4月1日就任
〃	南 裕子	高知県立大学学長	平成24年4月1日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成24年4月1日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成25年6月10日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成24年4月1日就任
監事	伊東 瑞文	(株)四国銀行お客さまサポート部長	平成26年8月27日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成24年4月1日就任

平成28年3月31日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

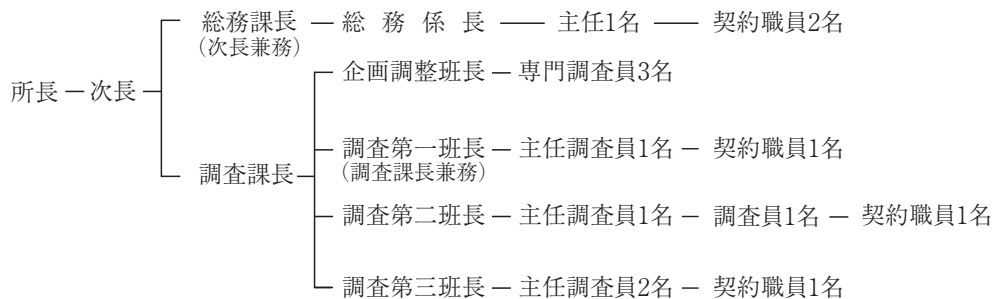


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成27年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		松 田 直 則	県教育委員会文化財課副参事	
次長(兼総務課長)		東 勝 彦	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長(兼次長)	東 勝 彦	〃	
	総務係長	吉 森 和 子	(公財)高知県文化財団	
	主 任	黒 岩 千 恵	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	濱 田 晶	(公財)高知県文化財団	
	〃	笹 野 女 怜	〃	
調査課	調査課長 (兼第一班長)		吉 成 承 三	〃
	企画調整班	企画調整班長	坂 本 憲 昭	〃
		専門調査員	茂 松 清 志	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤 野 明 弘	〃
		〃	江 間 盛 男	〃
	調査第一班	調査第一班長 (兼調査課長)	吉 成 承 三	(公財)高知県文化財団
		主任調査員	筒 井 三 菜	〃
		契約職員	谷 幸 絵	〃
	調査第二班	調査第二班長	池 澤 俊 幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	久 家 隆 芳	(公財)高知県文化財団
		調査員	矢 野 雅 子	〃
		契約職員	廣 内 美 登 利	〃
	調査第三班	調査第三班長	坂 本 裕 一	県教育委員会文化財課主任(4種)
		主任調査員	徳 平 涼 子	(公財)高知県文化財団
		〃	下 村 裕	県教育委員会文化財課主幹
		契約職員	奥 宮 千 恵 子	(公財)高知県文化財団

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地 : 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積 : 4,203 m²

建物構造 : 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫 : 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積 : 2,073.93 m²

(本館:615.58m² 北館:259.20m² 南館:574.11m² 収蔵庫:619.40m² プロパン庫:5.64m²)

延床面積 : 4,136.16 m²

(本館:1,038.68m² 北館:518.40m² 南館:1,045.92m² 収蔵庫:1,527.52m² プロパン庫:5.64m²)

事業費 : 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

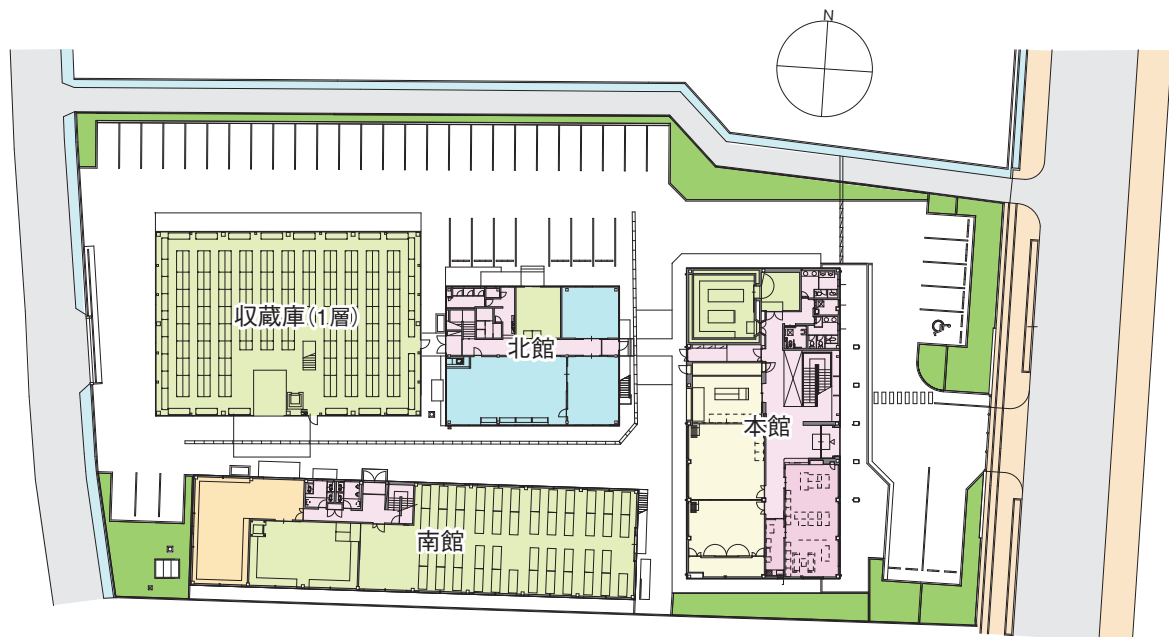


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法について

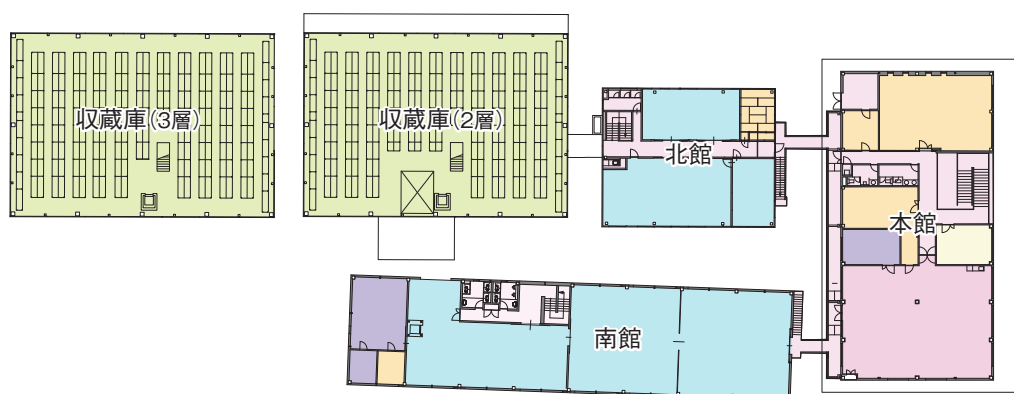


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土・日曜日、祝日、12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日、祝日も開館、企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査事業

平成 27 年度に受託した件数は 7 件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、南国安芸道路、高知西バイパス、新図書館等複合施設建設、県道大久保伊尾木線、県保健衛生庁舎に伴う発掘調査及び整理作業を行い、5 冊の発掘調査報告書を刊行した。受託契約事業費は 195,692,740 円であった。発掘調査件数は 3 件で受託費は昨年度より 11,131,640 円多く、対前年度比は 5% の増加である。経費の内訳は、国関係が 145,292,400 円(74%)、県関係が 50,400,340 円(26%)で、国土交通省関係の事業である宇賀・高田遺跡(5,600㎡)、県事業である岡遺跡(460㎡)、高知城跡北曲輪(890㎡)の発掘調査面積に比例する。平成 26 年度は発掘調査が 0 件であり、27 年度は発掘調査事業が僅かな増加となった。

平成 27 年度の発掘調査は、国事業では南国安芸道路の香南市下井地区(仮称 宇賀・高田遺跡)の発掘調査と、県事業の、県道大久保伊尾木線改良工事に伴う岡遺跡(安芸市)の発掘調査、更に高知県保健衛生庁舎建て替え工事に伴う高知城跡北曲輪(高知市)の発掘調査が行われた。また、整理業務は、国事業である南国安芸道路の東野土居遺跡Ⅲ、高知西バイパスの西浦遺跡・奥名遺跡の報告書公刊、県事業では図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡、県道大久保伊尾木線改良工事に伴う岡遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を中心に実施した。国事業の南国安芸道路では、平成 28 年度まで東野土居遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を実施し、平成 27 年度から香南のいち IC から

表 4 発掘調査推移表

年 度	件数	受託面積
平成 3 年度	16 件	25,910 ㎡
平成 4 年度	11 件	14,663 ㎡
平成 5 年度	16 件	17,010 ㎡
平成 6 年度	10 件	28,233 ㎡
平成 7 年度	14 件	28,856 ㎡
平成 8 年度	20 件	90,546 ㎡
平成 9 年度	14 件	93,675 ㎡
平成 10 年度	20 件	111,902 ㎡
平成 11 年度	23 件	41,320 ㎡
平成 12 年度	6 件	27,314 ㎡
平成 13 年度	31 件	21,853 ㎡
平成 14 年度	28 件	10,488 ㎡
平成 15 年度	17 件	6,052 ㎡
平成 16 年度	16 件	34,285 ㎡
平成 17 年度	23 件	58,084 ㎡
平成 18 年度	9 件	38,119 ㎡
平成 19 年度	11 件	41,662 ㎡
平成 20 年度	11 件	53,792 ㎡
平成 21 年度	11 件	34,500 ㎡
平成 22 年度	5 件	29,831 ㎡
平成 23 年度	6 件	42,508 ㎡
平成 24 年度	3 件	34,498 ㎡
平成 25 年度	4 件	4,554 ㎡
平成 26 年度	0 件	0 ㎡
平成 27 年度	3 件	6,950 ㎡
合 計	328 件	896,605 ㎡

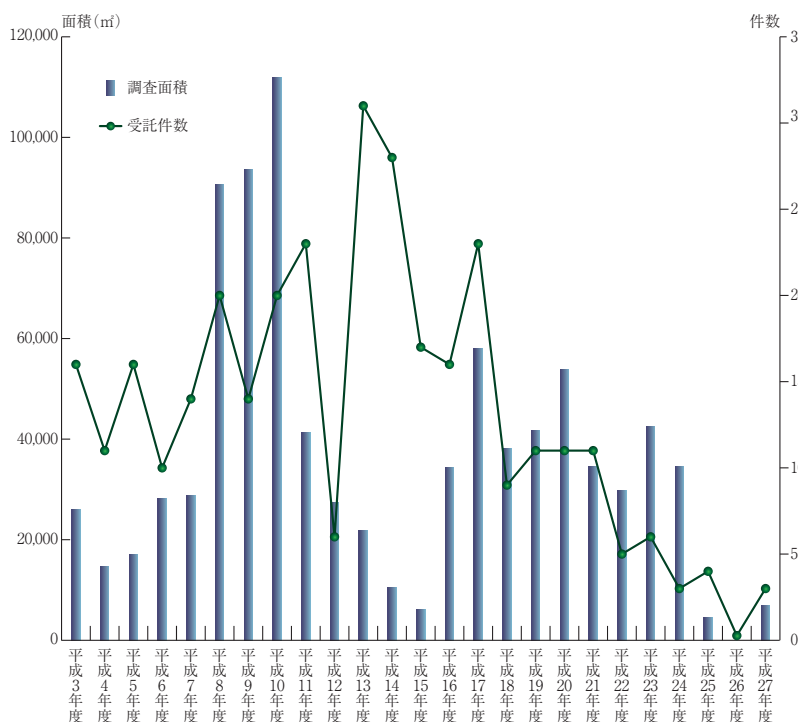


図 5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

高知空港IC間の3.5 kmについて試掘・確認調査の結果を得て香南市下井地区の本調査が実施されている。

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表3)は, 正職員 14 名(嘱託職員と契約職員を含めると21名)であった。内訳は考古専門職員が 8 名(県派遣2名, 財団職員5名, 嘱託職員1名), 県派遣の事務職員が 2 名, 派遣教員が 5 名, 財団契約職員(事務補助)が 5 名である。組織構成は変わらず所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長(次長兼務)1 名, 総務係長 1 名, 主任 1 名, 契約職員 2 名, 調査課は調査課長が第一班長と兼務しており, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配置した。調査課の人員内訳は調査課長兼第一班長 1 名, 企画調整班長 1 名, 調査班長 2 名, 調査員 8 名(専門調査員 3 名, 主

表5 平成27年度受託発掘調査事業(発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	岡遺跡	15-1AO	安芸市伊尾木	古代 ～ 近世	集落跡	460 m ²	H27.4.23 ～ H27.5.27	高知県	道路	高知県
2	宇賀遺跡 高田遺跡	15-2KU 15-3KT	香南市野市町下井	弥生 ・ 古代	〃	5,600 m ²	H27.4.1 ～ H28.3.31	国交省	〃	県教委
3	史跡高知城跡 北曲輪	15-4KK	高知市丸ノ内	近世	屋敷跡	890 m ²	H27.9.1 ～ H28.3.31	高知県	建物	高知県
合計						6,950 m ²				

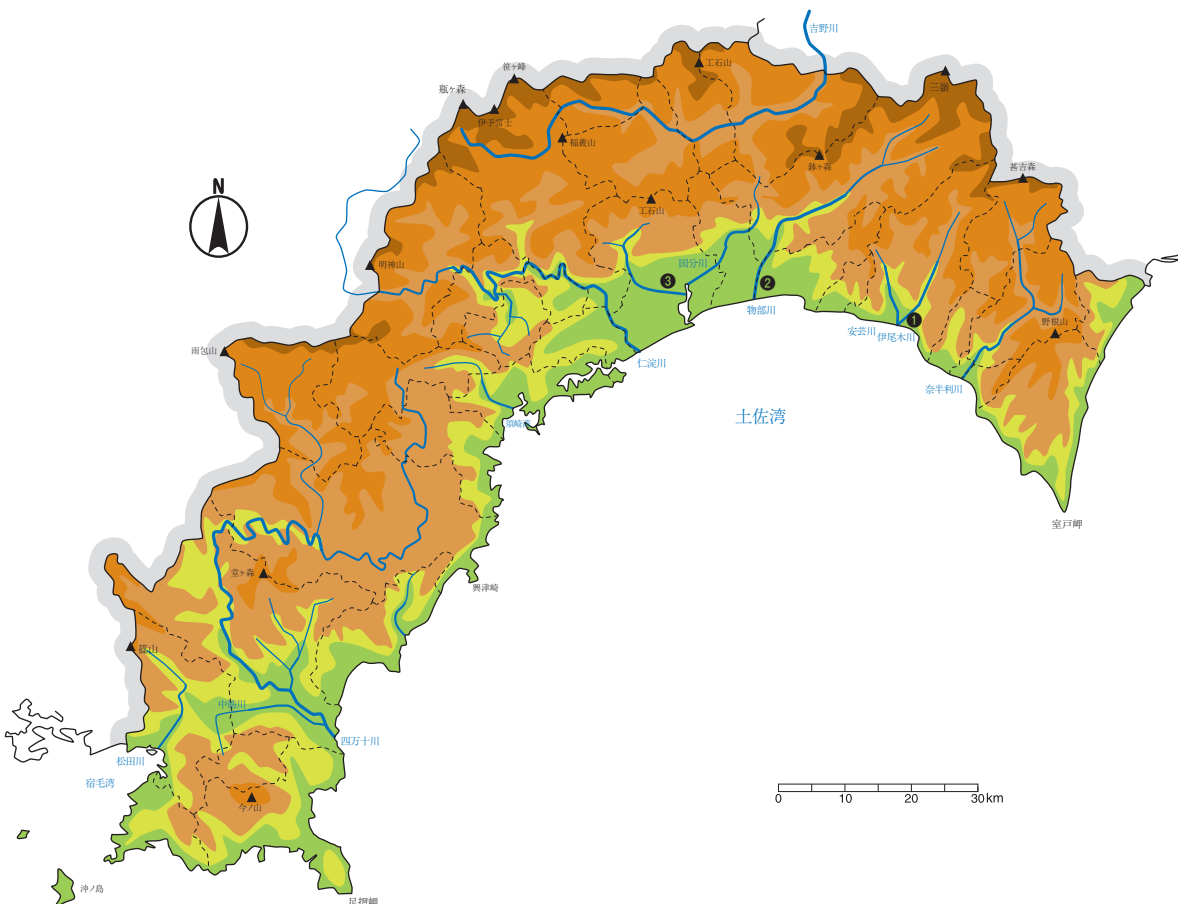


図6 平成27年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

任調査員4名, 調査員1名), 契約職員3名であり, この内実質的に発掘調査及び整理作業を担当するのは考古専門職員5名, 派遣教員2名である。

平成27年度の調査課の業務分担は, 企画調整班が物品・遺物(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開, 企画展等事業, 公開講座等事業, 出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務, 調査第一班が国土交通省の高知西バイパス, 調査第二班が南国安芸道路発掘事業及び県道事業(県道大久保伊尾木線改良工事), 調査第三班が南国安芸道路整理事業及び県事業(新図書館建設・保健衛生庁舎建設)に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成27年度の受託事業件数は5件で, 発掘調査3件, 整理作業2件であった。これを遺跡数で見ると, 7遺跡で, 報告書を刊行した遺跡は5遺跡である。

委託元は高知県教育委員会と高知県であり, 高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託2件で, 高知県からの受託事業には安芸土木事務所の県道改良工事に伴う岡遺跡の発掘調査及び報告書公刊に伴う整理作業, 県教育委員会図書館整備課の図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡の報告書公刊と保健衛生総合庁舎建設に伴う史跡高知城跡北曲輪発掘調査及び整理作業の計3件があった。

次に, 各事業について具体的にみってみる。まず, 高知県教育委員会から受託した国関係の事業には, 南国安芸道路外として契約し, 平成16年度から継続されている東部自動車道建設(南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業がある。南国安芸道路では当面の工事区間である香南のいちICから芸西西IC間の発掘調査が終了し, この区間の整理作業に移っている。今年度は引き続き東野土居遺跡を中心に整理作業を実施し, 『東野土居遺跡Ⅲ』の報告書を刊行した。平成28年度には『東野土居遺跡Ⅳ』の報告書を刊行予定である。また, 今年度から香南市下井地区の発掘調査が本格的に始まり, 今後は路線内の試掘調査の結果を得て発掘調査が継続的に行われる予定である。高知西バイパスでは平成23・24年度に発掘調査を実施した『西浦遺跡』と『奥

表6 平成27年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	宇賀遺跡 高田遺跡	10-3NTK 11-3NTK 12-1NTK	香南市野市町下井	弥生 ・ 古代	集落跡	H27.4.1 ～ H28.3.31	国交省	道路	県教委
2	東野土居遺跡	10-1KH 11-1KH	香南市野市町東野・土居	弥生 ～ 近世	〃	〃	〃	〃	〃
3	西浦遺跡	11-4IN	吾川郡いの町西浦	中世 ・ 近世	〃	〃	〃	〃	〃
4	奥名遺跡	12-3IO	吾川郡いの町奥名	古代 ～ 近世	〃	〃	〃	〃	〃
5	岡遺跡	15-1AO	安芸市伊尾木	古代 ～ 近世	〃	H27.11.1 ～ H28.3.10	高知県	〃	高知県
6	史跡高知城跡 北曲輪	13-3KK 13-4KK	高知市丸ノ内	近世	屋敷跡	H27.9.1 ～ H28.3.31	〃	建物	〃
7	追手筋遺跡	13-2KO	高知市追手筋	〃	〃	H27.4.1 ～ H27.12.31	〃	〃	〃

1. 発掘調査事業

名遺跡』の報告書を刊行した。

県関係では、新たに県道大久保伊尾木線建設に伴う発掘調査が行われ報告書も刊行した。また、高知県保健衛生総合庁舎建設に伴い高知城跡北曲輪の発掘調査及び整理作業を行い、平成29年度にも継続して調査を実施する予定である。平成25年度に実施した新図書館建設に伴う追手筋遺跡の発掘調査の整理作業を実施し報告書を刊行した。

以上、平成27年度の受託事業の概要を記したが、発掘調査は3件で、整理作業では報告書刊行が中心となった。

(2) 発掘調査報告書

平成27年度は5冊(第145～149集)の報告書を刊行した。内訳は国関係が3冊、県関係が2冊であった。事業別に見てみると、国関係では南国芸芸道路の『東野土居遺跡Ⅲ』、高知西バイパスの『西浦遺跡』『奥名遺跡』の3冊である。東野土居遺跡は高知県香南市野市町東野・土居に所在し、香宗川下流域の平野に立地する。今回の『東野土居遺跡Ⅲ』では、弥生時代後期から古墳時代前期・後期の集落と奈良時代から平安時代にかけての建物群、中世では溝に囲まれた屋敷群について触れられている。主に中世の遺構・遺物について報告されている。弥生時代後期から古墳時代前期及び後期にかけての竪穴建物跡は52軒検出されており、大規模な集落であった事が明らかとなった。古代では掘立柱建物跡と瓦が出土しており、寺院に関連する施設があった可能性がある。中世の遺構と遺物は東野土居遺跡

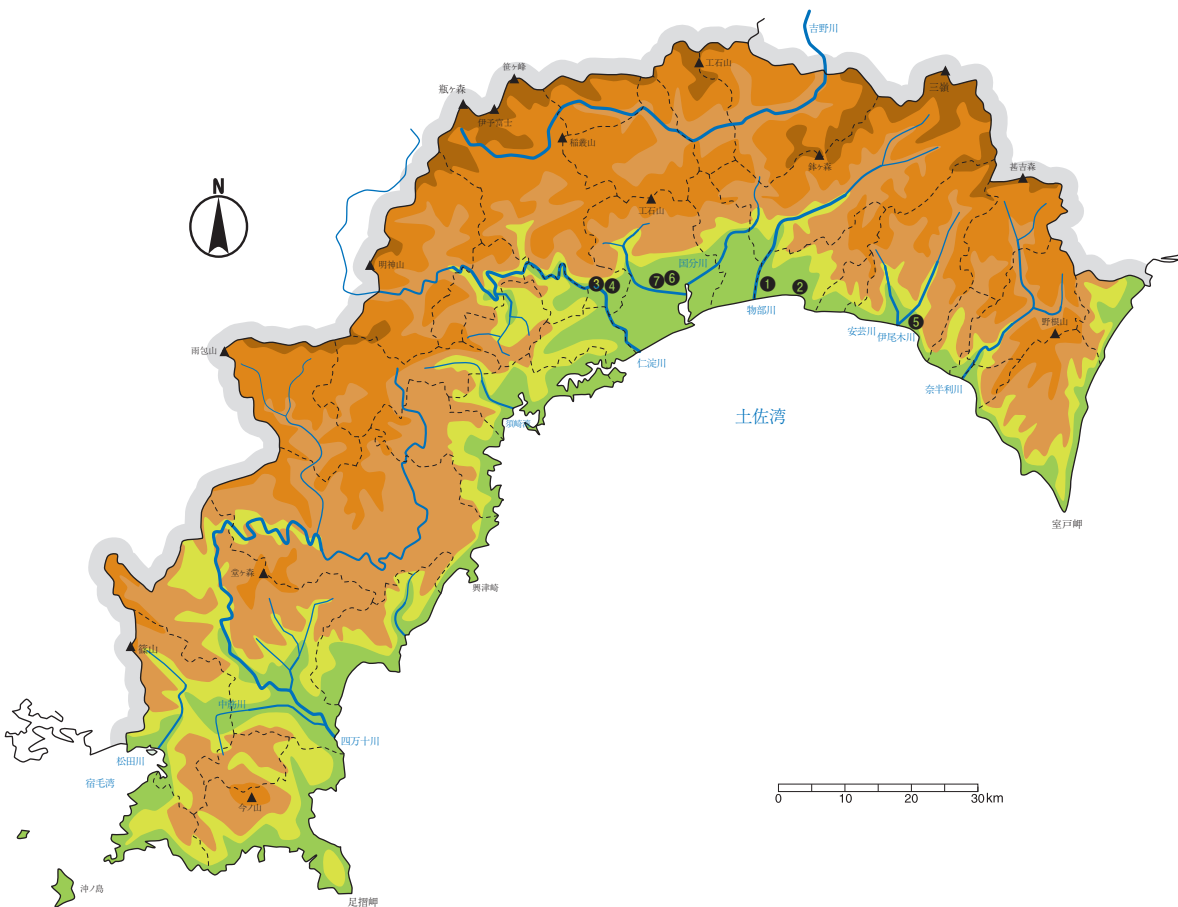


図7 平成27年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)

表7 平成27年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第145集	追手筋遺跡 新図書館複合施設建設に伴う発掘調査報告書	高知市追手筋	徳平涼子
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第146集	東野土居遺跡Ⅲ 南国安芸道路建設に伴う発掘調査報告書Ⅸ	香南市野市町 東野・土居	坂本裕一, 筒井三菜, 久家隆芳, 下村裕
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第147集	西浦遺跡 高知西バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ	吾川郡いの町	吉成承三, 筒井三菜
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第148集	奥名遺跡 高知西バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅴ	吾川郡いの町	吉成承三, 筒井三菜
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第149集	岡遺跡 県道大久保伊尾木線道路改良工事に伴う 発掘調査報告書	吾川郡いの町	久家隆芳, バリノ・サーヴェイ 株式会社

の調査区全域から検出されており、区画溝に囲われた中に掘立柱建物跡や土坑がみられる。出土遺物の帰属時期は13～16世紀代であるが、中心的な時期は14～15世紀代におく事ができる。高知西バイパスの『西浦遺跡』は高知県吾川郡いの町枝川に所在し、丘陵裾に立地する。南北朝期から室町時代の掘立柱建物跡や区画溝、さらに、江戸時代前期には土地造成を行い屋敷地を広げ、幕末から明治期、さらに近現代にかけての土地利用の変遷が明らかとなった。『奥名遺跡』は、吾川郡いの町に所在し、宇治川沿いの丘陵裾部に立地する。鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物跡・溝・土坑・井戸などの遺構を検出した。また、調査区の北部では平安時代後期を中心とする土師器・黒色土器がまとめて出土した。近世では墨書が施された焙烙を使用した祭祀、また、「浜松双鶴文」の鳳来文鏡が出土した。

県関係では『岡遺跡』と『追手筋遺跡』の2冊を刊行した。岡遺跡は安芸市伊尾木に所在し、調査地点は周知の包蔵地「岡遺跡」に隣接する丘陵裾の平野に立地する。調査では古代末から近代まで断続的に遺構・遺物を検出した。遺構では鍛冶に関連する石敷遺構が検出され、埋土中に含まれる炭化米の放射性炭素年代測定を行った結果、13世紀後半の年代が得られている。また、天正年間の『長宗我部地検帳』に記載がみられるホノギから伊尾木村の景観復元を試みた。追手筋遺跡は高知城下町に所在し、追手筋に面した江戸時代の武家屋敷跡で、江戸時代の絵図によると概ね二つの屋敷が存在し、山内家や百々家、藩医である村田家が居住していたとされる。調査で確認した遺構・遺物は江戸時代のものが大半を占めるが、一部では14～15世紀のピットや遺物が出土している。近世の遺構では桶や竹樋を用いた江戸時代の上水施設や、全国的にも類例が少ない武家屋敷に伴う池跡が確認されている。出土遺物は江戸時代初頭から幕末までの陶磁器や木製品が多く出土しており、中でも200点を越える木簡の出土は県内最多である。特筆すべきは「百々出雲」「山内蔵人」「村田」といった絵図に記載がみられる名前が書かれた木簡があり、人物が実際に居住していたことが判明した。

註

(1) 国関係事業については国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と

2. 指定管理事業

委託契約を行っている。平成27年度国関係で契約したのは土佐国道事務所関係の1件で、南国安芸道路外として南国安芸道路(宇賀・高田遺跡)の発掘調査及び南国安芸道路(東野土居遺跡), 高知西バイパス(西浦遺跡・奥名遺跡)の報告書公開に向けた整理作業があった。県関係は、県教育委員会から新図書館等複合施設建設に伴う追手筋遺跡, 並びに県道改良工事に伴う岡遺跡の発掘調査及び報告書公開に向けた整理作業の2件となり、平成27年度発掘調査関係の受託件数の合計は3件であった。

2. 指定管理事業

高知県教育委員会が県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務に関して導入した現在の指定管理者の指定期間は平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間であり、平成27年度はその3年目に該当する。本年度の主な普及教育事業としては年間5本の公開展示、公開講座81回(展示会に伴うものを含む)、出前考古学教室85校(92回)、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開などを行った。埋蔵文化財保護の推進と普及啓発をはかるため、発掘調査成果を活用した地域展や講演会、ワークショップ等を、昨年度に引き続き地域の特性を活かした史跡等総合活用支援事業の支援を受けて行った。また、初めての試みとして「まいぶんセンターまつり」を実施した。これは各種の「古代ものづくり」や火起こしの体験教室と、地域に関連した企画展示、館内見学を組み合わせ催しで、地域住民をはじめとする方々に埋蔵文化財センターの事業を知ってもらう機会とすることを

目的としたものである。結果として301人の来館者を得ることができ、アンケートの結果は好評であった。

また、来館者や催事参加者に出土遺物への理解を深めてもらうために、発掘調査で出土した遺物の中から抽出したもののレプリカ立体パズルを、国庫補助金を活用して製作した。さらに本県の主な遺跡の場所や名称、時代を示す展示パネルを、教職員互助会助成事業制度を利用して製作した。報告書に掲



写真1 年間行事カレンダー

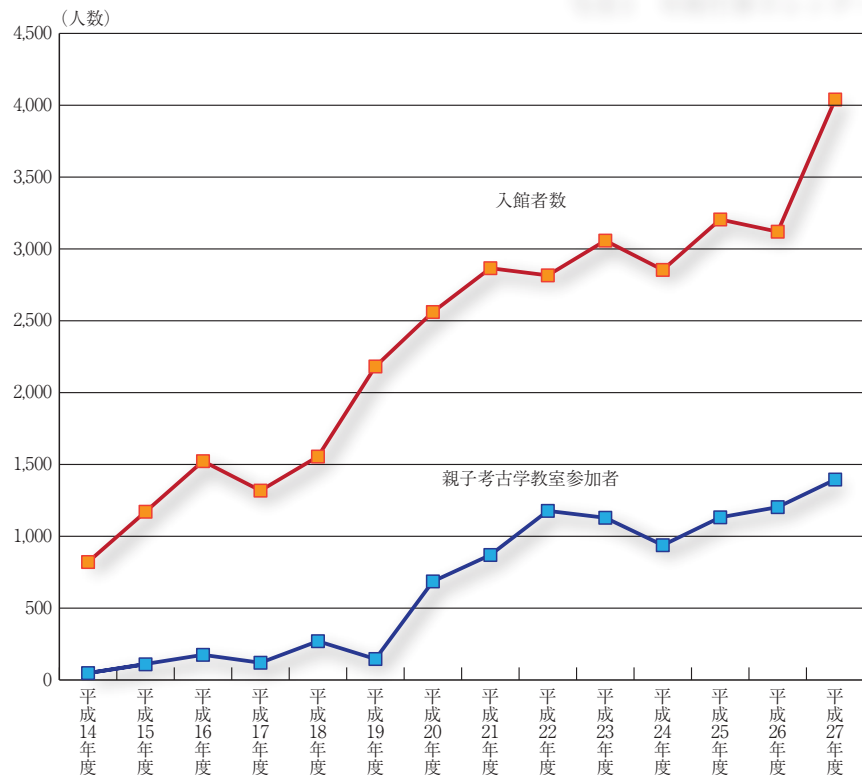


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

表8 入館者推移表と平成27年度の入館者

年度	合計 (人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)								展示報告・解説 参加人数(人)
		子供	大人	常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	
H13年度	811	487	324	811	-	-	-	-	-	-	-	-
H14年度	821	493	328	177	-	644	-	-	-	-	-	-
H15年度	1,171	703	468	468	-	703	-	-	-	-	-	20
H16年度	1,523	913	610	402	802	319	-	-	-	-	-	-
H17年度	1,318	787	531	431	542	345	-	-	-	-	-	17
H18年度	1,555	582	973	504	449	-	-	-	-	482	120	47
H19年度	2,182	348	1,834	392	809	501	-	-	333	-	147	87
H20年度	2,561	740	1,821	-	1,224	-	451	328	253	-	305	147
H21年度	2,866	905	1,961	-	1,417	-	508	388	363	-	190	170
H22年度	2,816	1,019	1,797	-	1,558	-	347	331	383	-	197	104
H23年度	3,058	1,035	2,023	-	1,521	-	490	466	369	-	212	147
H24年度	2,854	1,074	1,780	-	1,247	-	557	595	338	-	117	110
H25年度	3,205	1,342	1,863	-	1,431	-	625	415	621	-	113	208
H26年度	3,120	1,428	1,692	-	1,320	-	686	560	396	-	158	117
H27年度	4,040	1,591	2,449	-	1,640	-	725	870	422	-	175	87
合計(人)	33,901	13,447	20,454	3,185	13,960	2,512	4,389	3,953	3,478	482	1,734	1,261

載された遺物や資料の再整理等も行い、収蔵遺物をより有効に活用できる条件の整備を図った。

入館者の内訳については、展示および施設の見学者や体験学習者、講座・報告会等の参加者が中心であるが、出土文化財等の調査・研究のための来館者や、児童生徒の日常的な来館もみられた。入館者総数は4,040人で、過年度の入館者総数の推移をもとに設定した目標3,300人を大きく上回った。今後も入館者数を確保するには、親子考古学教室の継続的な取組み、公開展示、公開講座の参加者を確保した上で、学校団体をはじめとする団体見学を招致することが重要と思われる。埋蔵文化財の意義やそれに触れることの楽しさをアピールする事業内容をさらに充実させ、出前教室等の機会に事業や当施設の紹介に努めたい。また埋蔵文化財センターに在籍したことのある教員との連携もはかりたい。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査成果の公開活用のため、昨年度と同じく年間4本の展示会を行った。入館者数は総計4,040人で、前年度比29%増である。増加比率自体については、前年度は親子考古学教室が悪天候のため2日間にわたり中止せざるを得なかったことや、27年度に初めて開催したまいぶんセンターまつり等が要因としてあげられるが、総じて取組んできた普及・広報の努力成果が表れたものとみられる。

団体見学については計13件で、昨年度より1件増加した。これまでの件数及び人数の詳細は表16のとおりで、入館者数に占める団体見学者数の比率は比較的大きい。今後入館



写真2 企画展1ポスター

2. 指定管理事業

者数を確保していく上では、団体見学の誘致が一定の鍵になるといえよう。

以下、各展示会毎に報告する。

① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題し、旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示して、本県の歴史を概観できる展示とした。会期は4月20日(月)から6月27日(土)、入館者は725人で昨年度より39人、比率としては6%増加した。

② 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展

四国四県の埋蔵文化財センターが共同で行う巡回展である。本年度から新たな4ヵ年計画で「四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展」を開催している。本年度は「四国の黎明」をテーマに、旧石器時代から縄文時代における道具の製作技術、材料、生業などの一連の変化を、四国各県の出土遺物から検証する展示とした。会期は7月18日(土)から9月18日(金)、入館者1,640人で昨年度より325人、比率としては25%増加した。

③ 企画展2

企画展2では、昨年度より「発掘調査で明らかになった遺跡展」と題した展示を実施しており、本年度はその3回目として「発掘調査で明らかになった遺跡展3 - 高知城下の遺跡展 -」を10月13日(火)から12月25日(金)まで開催した。高知城下町での主な発掘調査成果により、城下町以前の様子から、城下町が形成され現在に至るまでを紹介した。会期中の入館者は870人で、昨年度に比べて310人、比率としては55%増加した。また、会期中の11月3日(火)には関連企画として、遺跡めぐり「高知城を散策する」を行い、88人の参加を得た。

④ 特別展

本年度は平成28年1月18日(月)から4月8日(金)までの会期中、「田村遺跡群とその時代1」と題した高知県の弥生時代前期～中期にスポットをあてた特別展を開催した。入館者は昨年度より62人多い458人で、対前年度比は約16%の増であった。また、関連企画として2月14日(日)に、高知県立文学館ホールで奈良県田原本町教育委員会柴田将幹氏を講師として「弥生時代の始まりと高知県」と題した記念講演会を開催した。参加者は54人で昨年度比26人の減となった。

当センターでは公開展示ごとに職員による展示報告会を1回、展示品解説を計2回(1日に2回実施)実施しており、入館者に対し展示だけではなく、きめ細かい解説を行った。また、常時の対応として、展示室入口に展示解説の要請を促す



写真3 巡回展ポスター

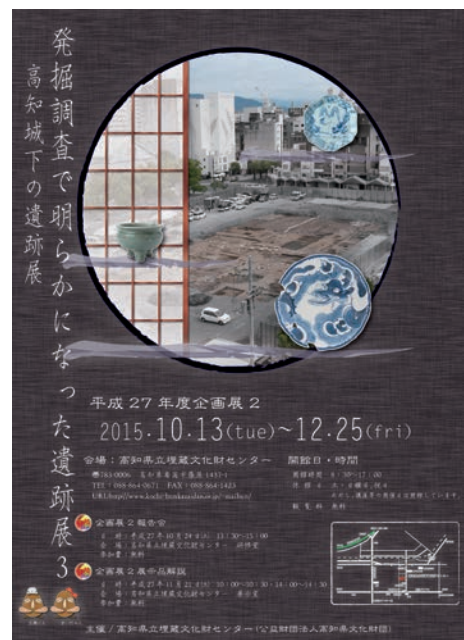


写真4 企画展2ポスター

案内板を設置し、入館者の要望に応じた説明を随時行った。

⑤ 移動展

3月5日(土)から3月19日(土)までの期間、香南市野市図書館を会場として、「香南市の遺跡展」を開催した。香南市教育委員会との共催である。同図書館の3階展示室を使用して、香南市域の発掘調査で出土した代表的な遺物、ならびに発掘調査の様子や遺跡について解説するパネルを掲示した。また、会期中にワークショップ(銅鏡づくり・立体土器パズルコーナー・塗り絵コーナー等)や愛媛大学准教授吉田広氏による講演会「香南市周辺の青銅器文明」などを行った。ワークショップ44人、講演会60人の参加者であった。展示の観覧者は計175人を数えた。

来年度は、自動車道建設等に伴う調査が近年行われた、いの町との連携を予定している。田村遺跡群や国府跡が所在する高知平野東部域とは異なる地域色を描く展示を目指す。

(2) 公開講座等

遺跡解説会4回、考古学からわかる歴史教室4回、授業にいかせる考古学教室1回、古代ものづくり体験教室16回(午前・午後の2回、うち土器焼きは悪天候のため中止)、親子考古学教室40回(午前・午後の2回)、各展示会に伴う報告会を4回と展示会場での解説会を計8回(午前・午後の2回)、そして特別展・移動展にかかる講演会を各1回、移動展でのワークショップ1回を開催した。合計は81回となる。各講座の1回あたり平均参加者数は、遺跡解説会が約28人(募集定員40人)、考古学からわかる歴史教室が約12人(募集定員40人)、親子考古学教室が約35人(同伴者を含む;募集定員は基本的に30人)、古代ものづくり体験教室が約12人(募集定員20人)、展示報告会約12人(募集定員約40人)、展示品解説約10人(募集定員各20人)であった。募集定員は対応職員数や使用施設、活動内容から決定している。親子考古学教室については希望者が殺到する状態だが、その他の講座は募集定員に達しない場合が多い。概して参加者が多かった講座は体験型や報道等で注目された成果に関する講座で、考古学的専門性が強くかつ座学を中心とする講座は、相対的に参加者が少なかった。

参加者の年齢・性別について、体験型講座である古代ものづくり体験教室でみると、年齢層は内容によってやや異なるものの、30歳代以上の女性が大半を占めている。一方、考古学講座や発掘



写真5 特別展ポスター



写真6 移動展ポスター



写真7 特別展記念講演会

2. 指定管理事業

表9 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		考古学からわかる歴史教室	遺跡解説会	授業にいかせる考古学教室	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会
平成13年度	-	-	-	-	-	-	-
平成14年度	48人	-	-	-	48人	-	-
平成15年度	109人	-	-	-	109人	-	-
平成16年度	175人	-	-	-	175人	-	-
平成17年度	120人	-	-	-	120人	-	-
平成18年度	431人	136人	-	-	270人	-	25人
平成19年度	444人	110人	138人	9人	146人	35人	6人
平成20年度	1,122人	83人	173人	10人	686人	148人	22人
平成21年度	1,187人	99人	106人	6人	870人	89人	17人
平成22年度	1,499人	80人	137人	7人	1,177人	67人	31人
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人	124人	11人
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人	157人	19人
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	-
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	-
平成27年度	1,648人	46人	111人	2人	1,395人	94人	-
合計	12,401人	828人	1,012人	63人	9,398人	969人	131人

※平成25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、先生のための考古学講座は授業にいかせる考古学教室に名称変更。

調査報告会など考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座では概して男性の割合が高く、中心は50歳代から70歳代で、50・60歳代が全参加者の約半数を占めた。

上記のように体験型講座では、女性の数が目立つ傾向は例年通りであり、また最近では比較的若年の層や家族連れでの参加も増えてきた。以上のように、体験型の講座は女性や若年・中年層が関心を持ちやすい行事と考えられる。座学を中心とする講座の参加者は実年男性が多く、考古学に興味を持って深く歴史を学びたい指向がうかがえる。専門的な内容を伝えることのできる講座において、従来からの需要に応えつつ参加者を増やすためには、内容の水準を一定維持しつつ、他分野や身近なテーマと絡めるなどの工夫をして、より広い層の興味をひく内容にしていくことが重要と思われる。当センターとしては、職員の調査・研究の成果をそのような需要に応えることができるものとしていく必要がある。

1,395人の参加のあった親子考古学教室では大人が592人(昨年度比95人増)、子どもが803人で、大人1人に対する子供人数は平均1.4人である。少子化の影響が表れていると考えられる一方、付き添いの大人も参加して楽しんでいる様子や、親子以外の家族や三世代で参加する例もあり、参加者層の広がりは強く感じられた。親子考古学教室はほとんど毎回希望者が定員を上回るため40回(30人/回)開催してい



写真8 親子考古学教室ポスター

表10 平成27年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者
企画展1(4月20日～6月27日)		725人	古代ものづくり体験教室		考古学からわかる歴史教室	
「企画展1」報告会	5月9日(土)	11人	1	5月23日(土) 16人	1	5月16日(土) 3人
展示品解説	6月6日(土)	11人	2	6月27日(土) 16人	2	7月23日(木) 12人
発掘へんろ展(7月18日～9月18日)		1,640人	3	10月31日(土) 5人	3	11月14日(土) 10人
「発掘へんろ展」報告会	7月20日(月)	11人	4	11月16日(月) 20人	4	1月23日(土) 21人
展示品解説	8月1日(土)	9人	5	12月5日(土) 7人	遺跡解説会	
企画展2(10月13日～12月25日)		870人	6	12月19日(土) 13人	1	6月13日(土) 26人
「企画展2」報告会	10月24日(土)	10人	7	1月18日(月) 13人	2	9月5日(土) 28人
展示品解説	11月21日(土)	4人	8	2月20日(土) 6人	3	10月17日(土) 30人
「高知城を散策する」	11月3日(火)	88人	9	3月19日(土) 中止	4	11月28日(土) 27人
特別展(1月18日～3月19日)		422人	授業にいかせる考古学教室		まいぶんセンターまつり	
「特別展」報告会	1月30日(土)	14人		8月3日(月) 2人		11月8日(日) 301人
記念講演会	2月14日(日)	54人				
展示品解説	2月27日(土)	17人				
移動展(3月5日～3月19日)		175人				
ワークショップ	3月13日(日)	44人				
講演会	〃	60人				

るが、今後内容とサービスの質を維持して需要に応じていくためには、ボランティアの協力が有効かつ必要と考えられる。

以上のように公開講座については、当センターの管理者として指定を受けて以来、定期的かつ継続的に開催し、実施回数と内容の両面で充実を図ってきた(平成26年度78回、平成27年度81回)。認知度と需要は確実に高まってきているが、今後埋蔵文化財に対する理解の実質を高め、底辺の拡大も図るためには、内容の検討や広報の工夫等においてさらなる努力が必要である。

その他の事業としては、高知県文化財団主催のワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブに参加し、2月6日に出土遺物展示・センター業務紹介(パネル・ビデオ上映)・どきどき土器パズル・遺跡クイズラリー・古代ものづくり教室・古代人衣装体験イベントを開催した。当日は家族連れや子どもたちを中心に150人に及ぶ来場者を得、内容についての感想も好評で、普及の新たな機会と感じられた。

① 考古学からわかる歴史教室

かつての「考古学講座」に代えて平成26年度から始めた歴史教室で、本年度も年4回、午後の2時間を枠とした講座としてセンターで実施した。その内1回は夏休みの自由研究に焦点をあてた講座であったが、小学生と保護者のみならず幅広い参加者を得た。夏休みの自由研究に関

表11 平成27年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)

開催日	講座内容	担当者
第1回(5月16日(土))	火起こしと勾玉のお話	藤野明弘
第2回(7月23日(土))	地域の歴史大昔のお宝で自由研究	茂松清志
第3回(11月14日(土))	古代の食器と鍋	池澤俊幸
第4回(1月23日(土))	衣服の考古学	坂本裕一

する関心は高く、資料を後日あらためて求める声が絶えず200部を数える希望があった。なお、参加総数は46人で対前年度比は12%減であった。

② 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査のうち、注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ、視

2. 指定管理事業

聴覚機器を活用して平易かつ視覚的に解説するとともに出土遺物も実見してもらい、遺跡についての理解を一層深めてもらうことを目的としている。年間4回、1回90分間の講座で、当センターで実施した。参加総数は111人で、昨年度より42人、比率にして61%増加した。来年度も同様の講座を計画している。

表12 平成27年度発掘調査報告会(遺跡解説会)

開催日	講座内容	担当者
第1回(6月13日(土))	バーガ森北斜面遺跡	吉成承三
第2回(9月5日(土))	田村遺跡群 前編	久家隆芳
第3回(10月17日(土))	田村遺跡群 後編	〃
第4回(11月28日(土))	東野土居遺跡	筒井三菜

③ 親子考古学教室

「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子対象の体験型講座である。公開講座の中でも例年希望者が多い。県内の小学生全員を対象として夏休み前にチラシを配布し、周知をはかった。本年度は当センターの他、宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・室戸市・安芸市・本山町で開催し、計40回実施した。参加人数は1,395人(大人592人、子ども803人)で、昨年度の1,203人(大人497人、子ども706人)より増加している。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の教員の関心を喚起し、埋蔵文化財センターとの連携につなげるために企画した講座で、夏休み中の8月3日に実施し、2名の参加があった。内容は、考古学概説と展示遺物解説に加え、古代ものづくり体験・整理作業体験・収蔵遺物から地域関連遺物を探索し調査する体験の3種から選択した活動とし、好評であった。

⑤ 古代ものづくり体験教室

本年度は昨年度までの「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」「土器づくり・土器焼き」に加えて「琥珀勾玉づくり」「編布づくり」の6メニューで年間16回開催し、96人の参加を得た。特に琥珀勾玉をつくる回は定員一杯の参加者であった。メニューの多彩さが好評である。参加者はリピーターが目立ち、固定客を得ている一方、新規層開拓のためには新たなメニューの開発が必要と考えている。

表13 平成27年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※7月18日(土)	16人	19人	14人	20人	69人	8月9日(日)	14人	18人	14人	21人	67人
※7月19日(日)	15人	18人	17人	23人	73人	8月10日(月)	15人	24人	14人	21人	74人
7月22日(水)	13人	18人	15人	17人	63人	※8月12日(水)	16人	24人	8人	14人	62人
※7月25日(土)	16人	20人	12人	18人	66人	8月15日(土)	17人	17人	18人	21人	73人
※7月26日(日)	18人	23人	15人	22人	78人	※8月16日(日)	16人	24人	15人	18人	73人
7月28日(火)	13人	20人	12人	27人	72人	8月17日(月)	14人	20人	16人	20人	70人
7月30日(木)	17人	23人	14人	20人	74人	8月20日(水)	14人	17人	18人	20人	69人
※8月2日(日)	13人	18人	15人	19人	65人	8月22日(土)	17人	19人	14人	18人	69人
8月4日(火)	12人	17人	11人	16人	56人	8月23日(日)	11人	16人	18人	18人	63人
8月6日(木)	15人	24人	16人	23人	78人	合計	299人	401人	293人	402人	1,395人
8月8日(土)	17人	22人	17人	26人	82人						

※は館外で実施

⑥まいぶんセンターまつり

今年度初めての取り組みとして、『まいぶんセンターまつり』を11月8日(日)に開催した。事業内容としては、古代ものづくり体験教室で実施している、勾玉づくり、編布づくり、銅鏡づくり、土器づくり及び火起こしの体験教室を一堂に開催して体験してもらいながら、出土遺物の整理作業の実際と収蔵遺物を見学してもらうバックヤードツアー及び出土遺物のミニ展示などを行い、地域の方々に埋蔵文化財センターを知ってもらう機会とした。当日は雨天でありながら301人の来館を得ることができた。

i 展示解説

企画展2「発掘調査で明らかになった遺跡展3」～高知城下の遺跡展～の展示だけではなく「南国市古代の遺跡」をテーマにして地域の遺物を特設展示して展示解説を行った。参加者は南国市古代の遺跡(遺物、遺構)を見たり古代の土器に触れることができ歴史を考える契機になったのではないかとと思われる。

ii バックヤードツアー

収蔵庫の土器や整理作業室で作業している行程を見学することでセンターの業務内容について理解していただき、楽しくクイズの問題に答えることでより興味をもってもらえた。

iii ものづくり体験教室

勾玉づくり、銅鏡づくり、編布づくり、土器づくり、火起こしを行った。勾玉づくりは、いつものように人気があり当初の予定より定員を増やし実施した。短時間に滑石を削り磨くことで自然の石を玉にかえる活動であり、最後はピカピカになった勾玉を見ると子どもだけではなく大人も喜んでくれた。銅鏡づくりは電熱器で低融点合金を溶かしてシリコンゴムの鑄型に流しこみ冷ましてからサンドペーパーで磨く工程で行い、田村遺跡で出土した内行花紋鏡を作った。編布づくりは今年度からの試みであったが多くの参加者があった。土器づくりは多くの大人も参加して丁寧な土器ができた。一ヵ月間乾燥させて職員が土器焼きを行い、焼き上がった土器をセンターに受け取りに来ていただいた。火起こしは、タイムトライアルを行い、参加者は全力を出していた。火起こしは簡単ではなく古代の人々の苦労も体験できたのではないだろうか。

iv 土器パズルコーナー

土器パズルをするコーナーでは親子でパズルに挑戦してもらい、広く土器を知ってもらう機会になった。また、このコーナーではクイズラリーをはじめ、当センターのマスコットである「文蔵くん」「まいちゃん」



写真9 まいぶんセンターまつり(展示解説)



写真10 まいぶんセンターまつり(土器づくり)



写真11 文蔵くんとまいちゃん

2. 指定管理事業

と写真を撮ったり、古代人の衣装を身にまとい写真を撮ったりする事もでき、縄文人・弥生人の人形とともに家族で写真撮影する場面もみられた。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開のため、インターネットホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレット等の新たな発行物を随時追加更新することにより、インターネットを介して最新情報を閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料及び情報の公開・活用に資している。このような当センターの手法は、全国的にみても利便性の高いものといえる。また、前年度の業務内容を記録した『年報24号』を刊行した。



写真12 ホームページ

① ホームページ

平成19年度にリニューアルしたテンプレートを使用して本年度版に更新すると共に、より見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況は随時更新して、情報公開を行った。アクセス数は1日平均27件であった。

(公財)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

② Web公開データベース

平成16年度から始めたWeb公開データベースは、報告書PDF等印刷物のみの公開となった。遺跡データベースは、最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ公開されることとなった。一方、報告書PDFについては高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認され、ユーザーに分かりやすいサイト構成に留意している。報告書等のデータをPDF化して掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報、現地説明会資料を対象としている。

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づいて登録し、情報管理データベースを更新することにより活用の便を図った。

遺物、写真、図書等の資料の貸出しについては、出土文化財29件、物品2件、写真掲載許可等11件の借用依頼等に対し、文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、迅速に対応した。平成27年度の主な貸出先は愛知県陶磁資料館、高知県立歴史民俗資料館、県内の公立学校、徳島県立博物館、福岡市博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘等がある。

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、本年度は13件の団体見学の受け入れを行った。施設見学は625人、書面等による発掘現場見学希望者はなかった。来年度は発掘調査も複数箇所予定されており、発掘現場見学や発掘体験を含め、団体等の見学を招致していく

表14 平成27年度物品・遺物(県有物)貸出一覧1

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
1	徳島県立博物館	野田廃寺出土瓦 計1点	H27.4.6～6.30	平成27年度開催予定の企画展における展示
2	福岡市博物館	天崎遺跡出土中広形銅矛 計2点	H27.9下旬～12下旬	平成27年度特別展示で展示
3	愛知県陶磁美術館	田村遺跡群出土能茶山焼3点 能茶山焼窯出土能茶山焼17点 計20点	H27.4.1～H28.3.31	常設展「日本のやきもの」で展示
4	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土遺物他 計367点	H27.4.1～H28.3.31	常設展で展示
5	四万十町立興津中学校	弘人屋敷跡出土遺物、東野土居遺跡出土遺物 計18点	H27.6.17～7.18	社会科歴史分野の授業で使用
6	徳島大学総合科学部 准教授 中村豊	上ノ村遺跡出土土器・石器 計110点	H27.6.2～6.3	研究のための実見・写真撮影・レプリカ採取
7	越知町立越知中学校	学校貸出セット1(遺物11点)	H27.6.13～6.22	社会科歴史分野の授業で使用
8	和歌山県立 紀伊風土記の丘	アブノ遺跡出土土器、具同中山遺跡群出土土器 計6点	H27.7.16～12月上旬	平成27年度秋期特別展で展示
9	東京国立博物館	居徳遺跡群出土石冠、木胎漆器 計2点	H27.7.24～H28.3.31	特集「四国の考古学」(仮)で展示
10	高知大学人文学部講師 宮里修及びび学生	居徳遺跡群出土遺物	H27.8.24～8.27	考古研究のための実見・観察
11	高知県立歴史民俗資料館	天神溝田遺跡出土遺物 計415点他	H27.9.15～12.26	企画展「里帰り!土佐の出土品-東京国立博物館所蔵品から-」で展示
12	いの町立吾北中学校	学校貸出セット1(遺物11点)	H27.10.6～10.21	社会科歴史分野の授業で使用
13	高知大学人文学部 講師 宮里修	田村遺跡群、小籠遺跡、具同中山遺跡群、東野土居遺跡出土遺物 計4点	H27.10.9～11.27	考古学実習の教材として使用
14	高知大学人文学部講師 宮里修	田村遺跡群出土石器 計2点	H27.11.2	調査研究のための遺物観察・写真撮影
15	高知大学人文学部 田中寧々	上ノ村遺跡、西分増井遺跡他出土 玉類 計27点	H27.11.5	卒業論文作成のため
16	高知大学人文学部 山崎美希	奥谷南遺跡、栄エ田遺跡出土石器 計42点	H27.11.5	卒業論文作成のため
17	高知大学人文学部 山崎美希	田村遺跡群、船戸遺跡出土石器 計45点	H27.11.26	卒業論文作成のため
18	高知大学人文学部 田中寧々	長畝古墳群、大谷古墳出土玉類 計59点	H27.11.26	卒業論文作成のため
19	高知大学人文学部 濱田光	比江廃寺出土土器 1点	H27.11.26	卒業論文作成のため
20	高知大学人文学部 講師 宮里修	田村遺跡群、小籠遺跡、具同中山遺跡群、東野土居遺跡出土遺物 計4点	H27.11.28～12.18	考古学実習の教材として使用
21	高知小津高等学校	田村遺跡群、西鴨地遺跡出土種実 計17点	H27.12.7	課題研究活動で使用
22	高知大学人文学部 田中寧々	田村遺跡群出土玉類 計3点	H27.12.17	卒業論文作成のため
23	高知大学人文学部 田中寧々	田村遺跡群、船戸遺跡、ひびのきサウジ、具同中山遺跡群出土玉類 計375点	H27.12.11	卒業論文作成のため
24	高知大学人文学部 山崎美希	女川遺跡群、銅古屋遺跡出土石器 計40点	H27.12.11	卒業論文作成のため
25	愛媛県立埋蔵文化財センター 多田仁	具同中山遺跡群出土遺物 計12点	H27.12.17	論文執筆のための資料調査
26	高知大学人文学部 講師 宮里修	居徳遺跡群、弘人屋敷跡、東野土居遺跡出土遺物 計7点	H28.1.8～2.5	考古学実習の教材として使用
27	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土遺物他 計367点	H28.3.31～H29.3.31	常設展で展示

2. 指定管理事業

表15 平成27年度物品・遺物(県有物)貸出一覧2

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
28	高知大学人文学部 講師 宮里修	上ノ村遺跡出土土器 計912点	H28.3.25	調査研究のための遺物観察・写真撮影
29	高知小津高等学校	田村遺跡群, 西鴨地遺跡出土種 計17点	H28.3.30	課題研究活動で使用

表16 平成27年度施設見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容	体験学習の内容
1	高知市立鏡中学校	H27.5.27	13人	1人	14人	展示見学, 体験学習	火起こし
2	高知市立泰小学校6年	H27.6.5	123人	6人	129人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし, 勾玉づくり
3	南国市立大篠小学校3年3・4組	H27.6.10	61人	4人	65人	展示見学, 館内見学	
4	南国市立大篠小学校3年1・2組	H27.6.17	62人	4人	66人	展示見学, 館内見学	
5	南国市立教育研究所	H27.7.24	13人	3人	16人	遺跡学習, 体験学習	勾玉づくり
6	中央地区文化財保護連絡協議会	H27.8.11	40人	0人	40人	展示見学, 館内見学, 会議	
7	香南市立夜須小学校3年	H27.9.29	24人	2人	26人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	火起こし
8	高知市立初月小学校5年	H27.10.9	130人	6人	136人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし, 勾玉づくり
9	いの町立枝川小学校6年	H27.10.16	52人	4人	56人	遺跡学習, 展示見学, 館内見学, 体験学習	火起こし, 勾玉づくり
10	南国市立国府小学校4年	H27.10.18	26人	1人	27人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
11	高知小津高等学校	H27.12.7	4人	1人	5人	展示見学, 課題研究活動	県内遺跡出土モ モ核の研究
12	香美市立ふれあい交流センター	H28.2.17	17人	3人	20人	遺跡学習, 展示見学	
13	南国市立三和小学校6年	H28.3.3	22人	3人	25人	遺跡学習, 展示見学, 体験学習	勾玉づくり
合計			587人	38人	625人		

ことが目標となる。

学校関連団体の展示施設見学は11件と昨年度より1件増加した。見学団体数は入館者数への影響が大きいですが、中でも学校関連の団体が主体を占めている。このような実態と出前考古学教室実施学校数の増加傾向から考えて、当センターで行う催事内容等に来館を促す工夫が求められていると考えられる。

次に、中学生等による「職場体験学習」については、受入れ数4校5件(内訳、南国市立北陵中学校3年[2人]、同2年[1人]いの町立伊野中学校[3人]高知市立大津中学校[2人]南国市立鳶ヶ池中学校[3人])であった。当センターでは、埋蔵文化財関連業務の実習や研修を受け入れる体制を取っており、年度によって希望数の増減はあるが、毎年生徒や学校から高い評価を得ている。今後、学校等との連携をさらに強

表17 平成10～27年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業児童生徒数	参加児童生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前期	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前期	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前期	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前期	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前期	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中・高等学校	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中・高等学校	65回	66校	前・後	2,470人	2,571人
14	平成23年度	全県下	小・中・高等学校	61回	64校	前・後	2,045人	2,223人
15	平成24年度	全県下	小・中・高等学校	79回	71校	前・後	2,710人	2,937人
16	平成25年度	全県下	小・中・高等学校	87回	79校	前・後	3,184人	3,242人
17	平成26年度	全県下	小・中・高等学校	97回	94校	前・後	3,660人	3,660人
18	平成27年度	全県下	小・中・高等学校	92回	85校	前・後	3,052人	3,052人
合計				875回	927校	-	31,683人	40,383人

め、積極的に取り組んでいくことが当センターの業務への理解促進や文化財保護の普及啓発にも関わってくると考えられる。

(4) 出前考古学教室

実施を開始して18年目を迎えた。本年度までの実績を合計すると、実施回数は875回、実施校は延べ927校、授業を受けた児童生徒は小学校を中心に延べ31,683人、見学者等を含めると参加児童生徒数は40,383人を数える。年々実施校は増加してきており、これまでの普及活動の成果といえる。

① 概要

本年度は88件の応募があり(小学校84校, 高等学校1校, 子ども会2件, 博物館), 応募してきた団体等のすべてに出向いた。複数回出向いた学校もあり, 計92回の実施となった。授業等を受けた児童生徒は3,052人である。実施に際しては, 前年度1月上旬に各学校へ文書を送付し, 希望する場合は2月末まで申し込みを受けた後, 内容について打ち合わせを行った。

前期は4月22日の楠目小学校から始めて8月24日の羽根こども会まで74回(72校), 後期は10月5日の香長小学校から2月28日の芸西子ども会まで18回(13校)であった。

② 内容

i 考古学授業「地域の遺跡」

授業は小・中・高等学校等の学年と希望に応じて行った。小学校は6年生を中心にして歴史学習の一環と捉えて授業を希望する学校がほとんどであった。各学校では日本の代



写真13 考古学授業

2. 指定管理事業

表18 平成27年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)1

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	4/22(水)	香美市	楠目小学校	6	1	24人
2	4/23(木)	黒潮町	佐賀小学校	6	1	25人
3	〃	黒潮町	伊与喜小学校	5,6	1	5人
4	4/24(金)	香美市	山田小学校	4	3	74人
5	4/27(月)	南国市	白木谷小学校	5,6	2	5人
6	〃	香美市	香長小学校	6	1	22人
7	4/28(火)	須崎市	吾桑小学校	6	1	16人
8	〃	いの町	川内小学校	6	1	6人
9	4/30(木)	本山町	本山・吉野小学校	6	2	23人
10	5/1(金)	須崎市	上分小学校	6	1	9人
11	〃	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	13人
12	5/7(木)	四万十市	下田小学校	6	1	6人
13	〃	大月町	大月小学校	6	2	46人
14	5/8(金)	四万十市	具同小学校	6	2	73人
15	〃	黒潮町	入野小学校	6	1	28人
16	5/11(月)	高知市	一ツ橋小学校	6	2	49人
17	5/12(火)	いの町	伊野南小学校	6	1	33人
18	5/13(水)	須崎市	安和小学校	6	1	5人
19	5/14(木)	黒潮町	三浦小学校	6	1	7人
20	〃	宿毛市	咸陽小学校	6	1	36人
21	5/15(金)	黒潮町	上川口小学校	5,6	2	16人
22	〃	黒潮町	田ノ口小学校	6	1	13人
23	5/18(月)	香美市	大宮小学校	6	1	25人
24	5/19(火)	高知市	介良潮見台小学校	6	2	42人
25	〃	南国市	長岡小学校	6	2	44人
26	5/21(木)	津野町	精華小学校	6	1	13人
27	〃	須崎市	南小学校	5,6	1	17人
28	5/22(金)	高知市	鏡小学校	5,6	1	15人
29	〃	高知市	久重小学校	6	1	10人
30	5/25(月)	南国市	大篠小学校	6	4	126人
31	5/26(火)	土佐市	北原小学校	5,6	2	19人
32	〃	大豊町	おおとよ小学校	6	1	11人
33	5/27(水)	土佐市	宇佐小学校	6	1	16人
34	5/28(木)	南国市	日章小学校	6	2	43人
35	〃	高知市	横浜新町小学校	6	3	89人
36	5/29(金)	高知市	北高等学校	1~4	1	20人
37	〃	高知市	三里小学校	6	2	47人
38	6/1(月)	安芸市	土居小学校	6	1	22人
39	〃	安芸市	伊尾木小学校	6	1	10人
40	6/2(火)	高知市	潮江東小学校	6	2	78人
41	〃	高知市	小高坂小学校	6	2	55人
42	6/3(水)	津野町	中央小学校	6	1	18人
43	6/4(木)	高知市	旭東小学校	6	2	53人
44	6/5(金)	室戸市	羽根小学校	6	2	12人
45	〃	室戸市	元小学校	5,6	1	6人
46	6/8(月)	佐川町	尾川小学校	6	1	5人
47	〃	須崎市	多ノ郷小学校	6	3	71人
48	6/9(火)	高知市	十津小学校	6	2	70人
49	6/10(水)	越知町	越知小学校	6	2	41人
50	6/11(木)	四万十市	東山小学校	6	2	49人
51	〃	四万十市	竹島小学校	5,6	1	9人
52	6/12(金)	宿毛市	小筑紫小学校	6	1	20人
53	〃	四万十市	東中筋小学校	6	1	14人
54	6/13(土)	南国市	岡豊小学校	4	2	48人

表19 平成27年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
55	6/15(月)	中土佐町	大野見小学校	5,6	2	12人
56	6/16(火)	高知市	旭小学校	6	3	79人
57	6/17(水)	四万十町	興津小学校	5,6	1	11人
58	6/18(木)	四万十市	大用小学校	5,6	1	8人
59	〃	三原村	三原小学校	6	1	8人
60	6/19(金)	四万十市	西土佐小学校	6	1	24人
61	6/20(土)	香美市	山田小学校	6	2	75人
62	6/22(月)	いの町	吾北小学校	6	1	20人
63	〃	いの町	長沢小学校	5,6	1	5人
64	〃	南国市	大篠小学校	3	4	123人
65	6/23(火)	いの町	神谷小学校	5,6	1	9人
66	6/25(木)	高知市	五台山小学校	6	1	17人
67	〃	〃	はりまや小学校	6	2	63人
68	6/26(金)	香南市	野市東小学校	6	2	53人
69	〃	高知市	昭和小学校	6	3	98人
70	6/29(月)	土佐市	蓮池小学校	6	1	33人
71	7/9(木)	土佐清水市	清水小学校	6	2	48人
72	7/10(金)	土佐清水市	三崎小学校	6	1	13人
73	8/1(土)	佐川町	横倉山博物館	1～6		20人
74	8/24(月)	室戸市	羽根子ども会	1～6		30人
合計						2,401人

表20 平成27年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	10/5(月)	香美市	香長小学校	6	1	28人
2	10/6(火)	南国市	日章小学校	4	1	35人
3	10/8(木)	四万十町	仁井田小学校	6	1	8人
4	10/11(日)	南国市	三和小学校	5	1	38人
5	10/13(火)	香美市	山田小学校	4	1	25人
6	10/14(水)	香美市	山田小学校	4	1	28人
7	10/15(木)	香美市	山田小学校	4	1	27人
8	〃	高知市	一宮東小学校	5	2	59人
9	10/27(火)	高知市	第四小学校	6	1	30人
10	11/1(日)	南国市	久礼田小学校	ふれあい		62人
11	11/6(金)	南国市	久礼田小学校	6	1	30人
12	11/12(木)	土佐市	高岡第二小学校	6	1	16人
13	11/20(金)	高知市	潮江小学校	6	2	67人
14	11/23(月)	南国市	三和小学校	4	1	44人
15	12/4(金)	高知市	長浜小学校	6	3	87人
16	12/7(月)	黒潮町	拳ノ川小学校	5,6	1	6人
17	1/31(日)	越知町	越知小学校	4	1	34人
18	2/28(日)	芸西村	芸西子ども会	1～6		27人
合計						651人

表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡を知らない児童生徒が多いので、遺跡地図を学校別に作成し、身の回りでどのような遺跡があるのかを学習した。そのほか遺物や遺構とは何か、発掘の仕方や整理作業の進め方、当センターの事業内容などについてパワーポイントを使って約30分間説明した。

ii 遺物等展示解説

本県で発掘された遺物を旧石器、縄文、弥生、古墳、古代、中世の各時代から抽出し展示を行った。

2. 指定管理事業

それぞれの時代の特徴を簡潔に説明し、児童生徒の興味や関心を高める工夫をした。また、直接土器や石器に触れる時間を設け、日常ではできない体験をさせた。児童生徒が遺物を通して古代の人々の生活と現代の生活について考え、比較するきっかけとなるよう指導した。

iii 体験学習

a. 火起こし

火きり板とマイギリやキリモミを使って火を起こす活動である。マイギリを中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアはキリモミにチャレンジすることになっている。この体験は、自然物を使った道具で火を起こし、現代の恵まれた環境を見直すことにある。火起こしは体力や根気も必要で、簡単にはできない。何度もチャレンジすることで古代の人々の苦労や工夫を肌で感じることができる。また、日本では古来より火を神聖なものとして大切にきており、火は生活の手段だけではないことも説明し、現代の生活を考え直す機会とする学習である。



写真14 火起こし

b. 勾玉づくり

勾玉は市販のセットを使って作成した。児童生徒がイメージした勾玉を時間内に工作できるように、やわらかい石材が選択されている。勾玉は、子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く、高知県でも数多くの勾玉が出土している等、基本的事項を学習した後、作り方を説明し、60分間で作成した。手順は石に絵を描き、余白をノコギリで切り、サンドペーパーで磨く作業である。各自が考えた、世界で一つのものが作れる喜びが、人気のゆえんであろう。



写真15 勾玉づくり

③ 本年度の成果と今後の取り組みについて

「出前」への申込みが多様化していることから、対応の便宜上本年度より次のように分類している。

出前A・・・学校の授業での開催

出前B・・・学校の授業以外での開催(学年行事や親子行事など)

出前C・・・学校以外での開催(地域行事や団体など)

i 実施回数や実施校について

前期の実施期間は4ヵ月と短いですが、小学校の授業と平行しての考古学教室を希望している学校が多く、希望が前期に集中している。後期は希望校が少ないので工夫した広報活動が必要である。年間を通じて実施回数が増加していることは歓迎できるが、県東部地域の応募が少ない。同地域は近年人口減少が進み、学校数も少ない地域だが、普及活動を進めていくことが重要と考える。また、中学・高等学校への広報普及にも積極的に取り組んでいきたい。

ii 内容について

出前授業では視聴覚機器を使うため、使用する写真や画像は吟味して抽出・作成している。児童生徒の感想では、楽しい、わかりやすい、遺跡に興味をもったという感想が多い。展示は、高知県で発掘された遺物を展示している。現代人の生活と昔の人々の生活について、類似点と相違点を比較して興味関心を高めた。何より古代人が実際に作った遺物に触れることができる体験は貴重である。火起こしは、ペアでの活動で、協力することの大切さも学ぶことができる。火がついた時の驚きや喜びも忘れることができないものとなっているようである。勾玉づくりは、根気よく取組まねばならない努力が形となったときに、古代の人々の思いをも共有できるのではないかと思う。さらに時間的余裕があれば、充実・展開できる可能性を秘めた活動である。

iii 学校側の受入れ態勢について

前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する場合にも、可能な限り遺跡の学習や解説を組み込んでもらい、活動の趣旨を達成できるよう努めた。当日の学校の対応については、必要な機器類や道具等が準備されており、円滑に運営することができた。担当教員の協力によってスムーズに実施できた。

iv 用具について

火起こし器は、いわゆるマイギリ式とキリモミ式を使用している。マイギリ式は破損が多く、毎回点検や修理をしているが、やや高価なため、質を維持しつつ経費を検討することが課題である。マイギリの芯先端は、ウツギをセンターで栽培し、加工したものも利用している。ヒノキより容易に火種ができる。一方、キリモミ式には竹を利用しているが、火種の形成が難しい。着火材には脱脂綿を使用する。火きり板は業者に注文、購入する。現在檜丸棒の口径14ミリの販売がなく、今後どのような道具を加工、制作していくのか検討中である。替芯も同様で在庫が減少しており、早急な手だてが必要である。

v スタッフについて

2名の担当職員を中心に、児童生徒の多い学校では臨時的に増員して対応した。出前先では互いに連携をとりながら、授業や展示解説等に臨んだ。本年度は3名のボランティアの協力を得、特に勾玉づくりの児童の支援をしていただき、活動を円滑に行うことができた。今後も、このようなボランティアの方々の協力が非常に効果的である。

④むすび

出前考古学教室は実施開始以来18年目を迎え、東西に長い県土の隅々まで出向いて開催してきた。参加数は年々増加し、より多くの児童生徒と触れ合う事ができるようになるにつれて、当事業に対する期待も大きくなっていることを感じる。児童生徒や教職員だけでなく、親子考古学教室やPTA活動としての参加を通じて保護者にも埋蔵文化財にふれてもらうことができ、好適な体験・学習環境が創出できていることも要因であろう。

巷では、「高知に遺跡などあるのか」といった声も聞く。一方で、当センターの催しで初めて地域の遺跡について知り、強い興味を示す方も少なくない。本県では埋蔵文化財・遺跡についての知識は十分に普及しているとは言いが、遺跡への関心が徐々に浸透し、故郷の歴史に興味をもつことができれば、大人も子供も自らの地域に向ける眼差しは変わってくるであろう。古代人の知恵は現在も我々の生活の各所に生きており、遺跡は足下に埋まっている。埋蔵文化財に関する諸活動を通じて、その認識を広めたい。

2. 指定管理事業

(5) 研修事業

職員の資質向上及び最新の情報を得るため職員専門研修(表21)を行うとともに独立法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行う埋蔵文化財担当者研修に1名(表22)、奈良文化財研究所と京都大学生存圏研究所の共同主催による保存科学研究集会及び講演会に1名(表22)が参加し、また財団自主企画研修として1名(表23)が研修を行った。

① 職員専門研修

今年度の職員専門研修(表21)は、独立法人国立文化財機構奈良文化財研究所の尾野善裕氏を招聘して実施した。また、当センターの職員以外にも市町村教育委員会等に案内し、11月12日は4名(香南市2名,香美市1名,土佐市1名),11月13日は5名(香南市2名,土佐市1名,南国市1名,高知大学1名)の参加があった。

演題は、「古代土器編年研究の現状と課題」で、研修一日目は、須恵器・土師器供膳具の器種(形式)分類、奈文研編年以前の研究史と現状の奈文研編年、さらに平安京編年に至るまで編年の基準資料及び暦年代推定の根拠資料について講義を受けた。さらに、今後の検討課題として宮都・都城の土器編年と各地の土器編年をいかに繋ぐか、今後の調査研究に必要な視点についても講義して頂き、県内の古代の遺跡で出土した土器の位置付けに役立つ講義内容であった。研修二日目は、実習的に県内の古代の遺跡で出土した土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器を実見・観察しながら特徴ある土器についてレクチャーを受けた。土器の型式、特徴について個々の遺物を見ながら講義を受けたので理解を深める事ができた。

② 埋蔵文化財担当者研修

本年度は奈良文化財研究所主催の埋蔵文化財専門研修「保存科学Ⅱ基礎(木製遺物)過程」に1名が参加し、専門的知識の向上を図った。また、奈良文化財研究所と京都大学生存圏研究所共同主催の研究集会及び講演会に1名を派遣した。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者等の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は11件(表24)の派遣を行った。

表21 平成27年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	古代土器編年研究の現状と課題	平成27年 11月12・13日	尾野 善裕	奈良文化財研究所 都城発掘調査部考古第二研究室長

表22 平成27年度埋蔵文化財担当者研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	保存科学Ⅱ基礎(木製遺物)課程	奈良文化財研究所	平成27年 10月15～23日	矢野 雅子
2	平成27年度保存科学研究集会及び講演会	京都府宇治市	平成28年 1月21～22日	坂本 憲昭

表23 平成27年度職員自主企画研修

No.	研修名	研修先	研修期間	研修者
1	中世後期における山陰地方の様相	鳥取県米子市他	平成27年9月25～28日	下村 裕

表24 平成27年度講師等派遣依頼一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
6月22日	茂松 清志	南国市立大篠小学校	第3学年総合的な学習の時間「埋蔵文化財センターについて知ろう」講師	南国市立大篠小学校
7月10日	池澤 俊幸	高知県高坂学園生涯老人大学	土佐を掘る「発掘調査で現れたお高知城下の歴史」講師	高知市東部健康福祉センター
7月14日	坂本 裕一	南国市教育委員会生涯学習課	稲生ふれあい教室 「発掘調査から見える歴史」講師	稲生ふれあい館
11月1日	坂本 裕一 藤野 明弘	南国市立久礼田小学校	「歴史体験講座(講話・勾玉づくり)」講師	南国市立久礼田小学校
11月11日	坂本 裕一	南国市教育委員会生涯学習課	中央高齢者教室 「発掘調査から見える歴史」講師	南国市社会福祉センター
12月16日	坂本 裕一	南国市教育委員会生涯学習課	歴史学習「発掘調査から見える地域の歴史」講師	南国市立大湊小学校
1月18日	吉成 承三	土佐観光ガイドボランティア協会	「浦戸城跡と城下町遺跡の解説」講師	高知市浦戸城跡
1月21日	吉成 承三	香南市教育委員会	香南市香我美町福万城跡試掘確認調査に関する調査指導	香南市香我美町福万城跡
2月19日	吉成 承三	岡山県古代吉備文化財センター	報告書作成に係るトレース作業及び編集作業におけるデジタル化並びに写真撮影とデータの保管方法について 視察対応	高知県立埋蔵文化財センター
2月25日	藤野 明弘	田村こどもクリニック	院内保護者講座 講師	田村こどもクリニック
3月8日	池澤 俊幸	高知県高坂学園生涯老人大学	土佐を掘る「発掘調査で現れたお城下の歴史」講師	高知県人権啓発センター

表25 平成27年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	平成27年度第1回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成27年4月22・23日	坂本憲昭
2	第36回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(長野市)	平成27年6月18・19日	松田直則
3	平成27年度第2回「続・発掘へんろ」高知会場展示・実行委員会	平成27年7月16・17日	吉成承三・坂本憲昭
4	平成27年度第3回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成27年9月29日	坂本憲昭
5	平成27年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(広島市)	平成27年10月8・9日	東 勝彦・吉成承三
6	平成27年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(広島市)	平成27年12月10・11日	松田直則・筒井三菜
7	平成27年度第4回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成28年1月6日	坂本憲昭・茂松清志
8	平成27年度第5回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成28年3月16日	坂本憲昭

(7) 遺物の再整理事業等

埋蔵文化財の有効活用を目的に、報告書に掲載された遺物の再整理等を行い、遺物の有効活用を図るため出土遺物の再整理を行った。今年度は田村遺跡群の遺物の489点の接合・補填作業を行った。

2. 指定管理事業

(8) その他

① 共催事業

香南市教育委員会との共催で行った移動展のほか、高知県立歴史民俗資料館・東京国立博物館主催の「里帰り！土佐の出土品－東京国立博物館所蔵品から－」展(10月9日～12月6日)に共催し、県内の出土文化財 415 点を出展した。また、親子考古学教室も共催や後援を各教育委員会から得て行った。

② 各種イベントへの参加・協力

今年度は、本部が主催し参加したイオンモールでのワークショップ以外にも当センター主催以外のイベントとして、安芸広域市町村圏事務局主催の「東部まるパクっ」に参加した。また昨年度作製した着ぐるみ「文蔵くん・まいちゃん」が高知県立坂本龍馬記念館の「レッツゴーハンドインハンド 2015」に参加した。ワークショップ形式のイオンモールではボランティア2名の協力を得て、銅鏡づくり、3D土器パズル、展示、クイズラリー、古代衣装体験、着ぐるみと触れ合い、DVD鑑賞など多くの活動を行い好評で150人の参加があった。また「高知東海岸ハピもぐフェスタ in 高知駅前」では勾玉づくりを行い48人の参加があった。館外のイベントについてはアンケートなどでは、初めて参加した人がほとんどで、当センターを知ってもらいきっかけとなっていることが判断された。



写真16 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ1



写真17 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ2

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 宇賀・高田遺跡(15-2KU・15-3KT)

所在地 香南市野市町下井

立地 段丘崖上

時代 弥生時代～古代(奈良～平安)

調査期間 平成27年4月13日～7月31日(宇賀遺跡)

平成27年8月3日～平成28年3月31日(高田遺跡)

調査面積 2,735㎡(宇賀遺跡)

2,865㎡(高田遺跡)

担当者 池澤俊幸・矢野雅子

調査内容 宇賀遺跡は高知県教育委員会が平成26年に実施した

試掘調査で弥生土器、須恵器、石製品、磁器の破片が少量出土し、一部の試掘坑からは遺構とみられる落ち込みも検出されたことから、中世以前の遺跡が存在していると判断された。

ただ、調査区内では建物跡に関連する柱穴が確認されていないことや遺物の密度等から当該地は集落の居住域ではなく、畑や水田等の耕作に関連した生産遺跡である可能性が高いと判断される。

高田遺跡は物部川の河口に近い東岸に立地し、埋蔵文化財包蔵地として周知されていたが、時代等の内容はほとんど不明であった。

本年度の調査は、国土交通省が計画している高知東部自動車道(南国安芸道路)の工事区域内において、平成26年度に高知県教育委員会が遺跡の範囲や内容についての資料を得るため試掘確認調査を実施し、8基の試掘坑から須恵器・土師質土器・土器・陶磁器などが出土し、遺構もすべての試掘坑で検出され、古代を中心に中世や近世の遺構・遺物が遺存している可能性が考えられたため、工事によって影響を受ける部分について発掘調査を実施した。

今回の発掘調査では、竪穴建物跡8軒・甕棺墓2基・掘立柱建物跡10棟以上・土坑22基・溝跡3条・性格不明遺構13基・その他多数のピット、出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・瓦質土器・陶磁器・土製品・石製品・鉄製品などを検出した。帰属時期は概ね弥生時代後期と奈良時代から平安時代末期に属するとみられる。

弥生時代に属する主な遺構には竪穴建物跡や甕棺墓がある。竪穴建物跡の中には長軸7.6mと大型のものもみられる。その他の竪穴建物跡や甕棺墓では土器がまとまって出土しており、当該期の土器や生活の復元において良好な資料となる。掘立柱建物跡も、同時代に属するものが少なくとも1棟存在するとみられる。遺構・遺物の時期は弥生時代後期後半が中心とみられるが、高田遺跡の北側で発見されている下ノ坪遺跡の時期は弥生時代後期前半を中心としており、当該期の集落変遷を辿ることができる成果となる。

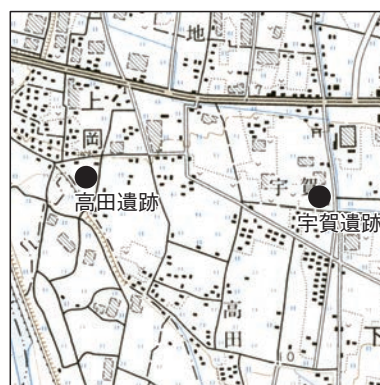


図9 宇賀・高田遺跡位置図



写真18 掘立柱建物跡

1. 宇賀・高田遺跡

古代(奈良～平安)に属する検出遺構のうち、掘立柱建物跡群は南北2つの単位として把握することが可能で、両者の間には区画溝と考えられる溝跡が検出されている。両建物跡群で最大規模の建物はいずれも東西棟で、それに直交する形で脇に南北棟がみられる。また、溝跡に接して家畜の頭骨を埋納した土坑が検出されており、祭祀などに関連した遺構の可能性もある。



写真19 須恵器出土状態

出土している当該期の遺物のうち、円面硯は官衙など地域の管理的な施設で出土しており、識字階層の存在を示すものである。また、鉄滓などの鍛冶関連遺物や大型から小型まで様々な法量がみられる土錘は、そのような性格を持つ高田遺跡が各種の生産活動に関わっていたことを示している。

緑釉・灰釉・貿易陶磁器は平安時代の所産で、一定の希少性を有し、官衙や有力者の拠点で出土することが多い。緑釉陶器は京都近郊産の他に東海産のものがあり、灰釉陶器は東海産のものがみられる。前者には手法が特に丁寧な高級品とされるものが含まれている。

貿易陶磁器のうち越州窯系青磁は地方での出土数が特に少なく、本県では田村遺跡群に次いで2例目の出土である。貿易陶磁器は平安時代末期以降、本県の諸遺跡で出土しているが、高田遺跡で出土した越州窯系青磁や華南産とみられる白磁はその最古段階に位置付けられるもので、貿易陶磁器の流通史において重要な資料となる。

高田遺跡の周辺では、約700m上流の下ノ坪遺跡で古代の大型建物跡群や唐式の銅鏡の他、各種の官衙的遺物が出土している。それに近接する西野遺跡群では東海産緑釉陶器が出土しており、拠点的性格を持った施設群が当該地一帯に展開していたこととなる。このような特筆すべき様相の要因については、国府も所在する高知平野東部において流通・交通の基幹となっていた物部川の河口に近いという地理的条件が考えられる。古代の同河口部は広い潟になっていたと考えられており、対岸の田村遺跡群の成果も併せて港湾の機能が想定されている。高田遺跡を含む周辺遺跡の調査成果は、そのような立地条件を背景にした当該地域の歴史を解明する新たな知見となる。

2. 高知城跡北曲輪こうちじょうせききたくるわ(15-4KK)

所在地 高知県高知市丸ノ内2丁目34

立地 沖積地

時代 近世

調査期間 平成27年9月28日～12月18日

調査面積 890㎡

担当者 坂本裕一・徳平涼子

調査内容 調査地は史跡高知城跡の北曲輪であり、17世紀中葉の『寛文己酉高知絵図』では「御作事場」「御米蔵」「御武具蔵」等の藩の施設がみられる。さらに、明治6年に高知城公園化が決まった際に作られた「高知城の図」でも同様の施設がみられることから、幕末までこれらの施設が当地に引き続き置かれたものとみられる。今回の調査地は北曲輪地区の東部に位置し、米蔵が存在したものとみられる。高知城跡北曲輪では、平成18年に高知市教育委員会によって調査が行われている。高知市教育委員会の調査地点は今回の調査地の北西約100mに位置する。調査では高知城下町においては非常に数少ない古墳時代の遺構が確認されているほか、江戸時代以前の古代や中世の遺構も確認されている。江戸時代の遺構では高知城跡に関連するとみられる石列や土坑などが確認されており、江戸時代の土器・陶磁器も出土している。

今回の調査は保健衛生総合庁舎建築に伴うもので、平成25年には埋蔵文化財確認調査を行っている。確認調査では、江戸時代の北曲輪整備に伴う整地層や江戸時代のピットが確認されており、近現代の攪乱を受けているものの、調査地周辺には高知城跡関連の遺構が残存する可能性が高いとされている。

調査では江戸時代前期から後期にかけての掘立柱建物跡1棟、土坑21基、大型土坑24基、溝跡17条、ピット56個を確認した。土坑や溝跡等は規模が大きく深いものが多く、藩の施設の関連遺構である可能性が高い。掘立柱建物跡は調査区南東部で小規模なものが確認されたものの、絵図にみられる米蔵と考えられる建物跡は確認できなかった。しかしながら、瓦が非常に多く出土する瓦の廃棄土坑とみられる土坑が多数確認されており、周辺に瓦葺き建物が存在していたことが窺われる。調査状況より、絵図にみられる米蔵などは今回の調査地の東側あるいは南側に存在した可能性が高いと考えられる。また、出土遺物では約9tを量る瓦がみられ、多くの瓦葺き建物が存在していたものとみ

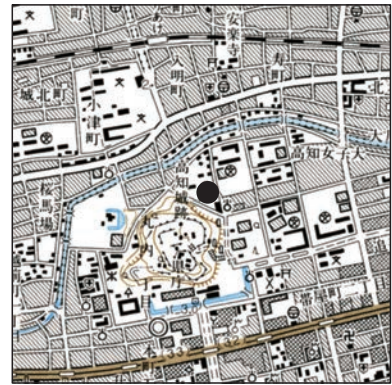


図10 高知城跡北曲輪位置図



写真20 瓦廃棄土坑及び溝跡完掘状態



写真21 漆器碗出土状態

2. 高知城跡北曲輪

られる。瓦は丸瓦と平瓦が多く、棧瓦は近代のものを除くと出土しておらず、城下町の様相とは異なり、高知城跡の特質とも考えられる。また、瓦の銘についても「〇」が大半を占め、文字が入っているものはほとんど見られず、この調査地の特徴といえる。さらに、三葉柏文のある軒丸瓦はこれまでの高知城跡の調査で



写真22 鬼瓦

も多く出土しているが、三葉柏文の軒平瓦や鬼瓦、鳥衾瓦は初めて出土したものもあり、非常に貴重な成果であるといえる。土器・陶磁器については出土量が比較的少なく、時期が不明な遺構も多いが、江戸時代前期から中期にかけての遺物が比較的多くみられる。調査地は粘土質の土壌で、遺構の底では絶えず湧水がみられる状況であり、木製品も多く出土した。木製品については木簡 15 点、漆器 50 点などが出土している。平成 29 年度には今回の調査区の南側を調査する予定であり、大高坂山の裾部に位置する箇所であることから、今回の調査区よりも地盤が安定しているものとみられ、絵図に描かれた藩の施設などが確認されることが期待される。

3. 岡遺跡(15-1A0)

所在地 安芸市伊尾木

立地 沖積平野

時代 古代～近世

調査期間 平成27年4月23日～平成27年5月27日

調査面積 460㎡

担当者 久家隆芳

調査内容 県道大久保伊尾木線道路改良工事に伴って発掘調査を実施した。調査の結果、古代末～近世の遺構・遺物を検出した。

中世では鍛冶関連遺構を検出した。上面が平らになるように石を埋め込み底面を作り、側石を立て低い壁とする。長軸約1.2m、短軸約0.9mであり、一部は調査区外へとのびる。石の表面は焼け、赤く発色していた。この石敷きに接して直径約30cmの炉跡が付属していた。炉跡の埋土には炭化物を非常に多く含み、粒状滓・鍛造剥片が出土した。居住域は丘陵上にあると考えられ、火災による延焼を防ぐため居住には不向きなエリアに鍛冶工房を構えていたなど中世段階の集落構造の一端が明らかとなった。出土遺物には土師質土器碗・皿・鍋・羽釜、青磁碗・皿、東播系の須恵器の捏ね鉢、瓦器などがある。

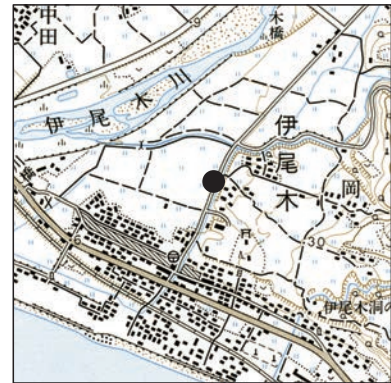


図11 岡遺跡位置図



写真23 鍛冶関連遺構検出状態



写真24 遺構完掘状態

3. 岡遺跡

近世(17世紀)では井戸、土坑を備えた屋敷地の一部を検出した。井戸は直径約1.4mで川原石を組んでいた。土坑は直径約1～2mの円形のもの3基並んでいた。また、井戸跡と土坑群の間には遺構の空白地がある。土師質土器、備前焼の播鉢、天目茶碗、唐津焼等の陶磁器類が出土した。

小規模な調査であるが発掘調査の少ない地域であり、当地域の歴史を復元していくうえで貴重な資料である。

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令24高文財第698号

公益財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成24年12月27日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成25年4月1日から平成30年3月31日まで

高知県埋蔵文化財センター年報

第25号

2015年度

発行日 平成28年12月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

